第13節　公開・活用に関する計画

羽州街道の楢下宿及び金山越において、地域の自然や歴史・文化の特徴や魅力を活かして行われている多様な取り組みは、山形県の「未来に伝える山形の宝」に登録されている。

史跡は、宿場や街道の往時の記憶を今に伝え、自然と調和した景観は、来訪者に憩いや安らぎを与える。また、学校教育や生涯学習においては、ふるさと学習や自然観察の場としても非常に有益である。

５－13－１　整備及び調査の公開

史跡の理解をさらに深め、郷土愛を醸成するため、整備の段階においても、これまで同様、住民参加スタイルで実施し、地域の歴史文化遺産であることの理解を促す。

史跡に関連する新たな史料については、楢下宿のガイダンス施設である脇本陣「旧丹野家住宅（滝沢屋）」で展示公開するほか、調査や研究の成果を周知する報告会や企画展は、郷土資料館の機能を兼ね備える上山城や郷土資料を所蔵する上山市立図書館での開催を検討する（図388）。

５－13－２　活用による史跡理解の推進

（１）学校教育における活用

地元の小学校等とは、ふるさと理解を推進するための総合学習や出前講座等でこれまで同様、積極的に連携を図りこれからの地域を担う子どもたちの郷土愛と文化財保護意識の醸成を図る（図 389）。

（２）高等学校・大学による活用

高校生に課外活動の場として史跡を提供することによりお茶会の開催や邦楽の演奏など、これまでにない新たな活用が図られている。

また、大学生による史跡調査やフィールドワークは、住民にとって史跡の価値を再認識する有効な機会となる。

また、東北芸術工科大学ヤマガタ蔵プロジェクトによる歴史的建造物を活かしたワークショップなど、学生による地域づくりの実践は、住民活動の刺激となるため、今後も多様な学部・学科と連携を図りながら史跡の活用を推進する（図390）。

図 387　発掘調査の現地説明会（金山越）

図 388　上山城企画展「史跡楢下宿の魅力」

図 389　小学校の総合学習（金山越）

図 390 山田屋の蔵を拠点に展開されている「蔵プロジェクト」／東北芸術工科大学

（3）歴史文化を活かした地域づくりによる活用

小正月の伝統行事「だんごさし（図391）」や高齢者サロンの定期開催、地域で受け継がれてきた「楢下とっくり踊り」の披露など、楢下宿ではこれまでも地域住民による史跡の積極的な活用が図られてきている。

また、ふるさとの魅力を再発見するため、学識経験者を講師招いての学習会や、住民による「宿場のまち歩き」が繰り返し開催されるなど、住民主導による新たな地域活動も始動している。

今後も、歴史文化を活かした住民による地域づくり活動を、情報の発信も含め、積極的に支援する。

図 391　小正月の伝統行事「だんごさし」（大黒屋）

（4）地域資源としての活用

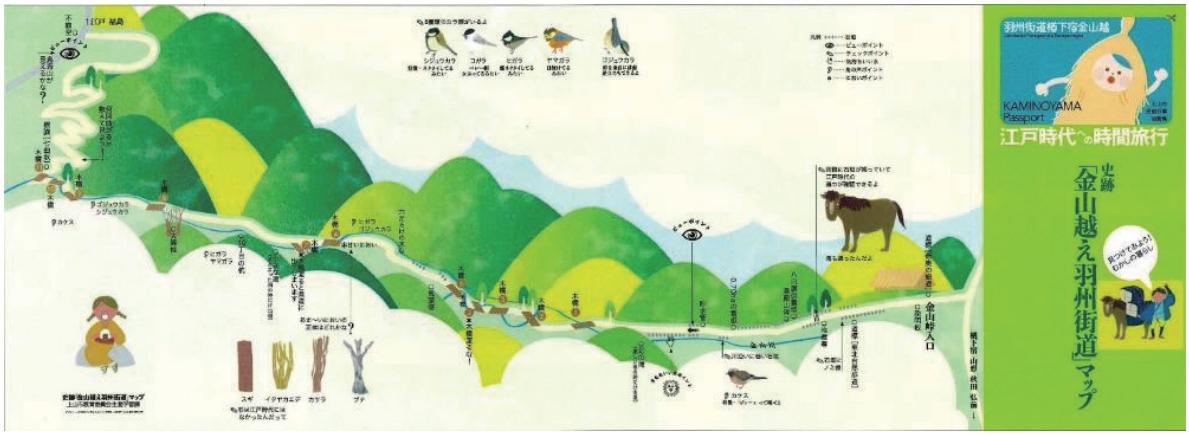
羽州街道を飛脚姿で駆け抜ける「羽州街道飛脚駅伝大会」や、全国から参加者が集い果樹地帯を自転車で駆け抜ける「かみのやまツール・ド・ラ・フランス大会（※楢下宿は給水ポイント）」が羽州街道及び楢下宿を活かして開催されている（図392）。

図 392　ツール・ド・ラ・フランス大会の給水ポイント（大黒屋駐車場）

また、楢下宿の歴史や生活文化をテーマとする「大人の寺子屋（学習会）」や、史跡来訪者を地域住民が受け入れガイド案内するなどの活用も積極的に図られており、地域資源としての史跡を核とした交流人口や関係人口の拡大にも寄与している（図393）。

図 393　楢下宿来訪者の受入案内（大黒屋）

図 394　史跡理解を深め、さらなる活用を図るために東北芸術工科大学と制作した金山越え羽州街道マップ。金山越街道の動植物や史跡ビューポイントなども描かれている



◆羽州街道金山越における公開・活用状況

図 395　自然観察（市民史跡保全活動）

図 396　市立宮川小学校によるふるさと学習

図 397 発掘調査現地説明会（金山茶屋跡）

図 398　自然環境調査会による自然観察

図 399　史跡探訪（市民史跡保全活動）

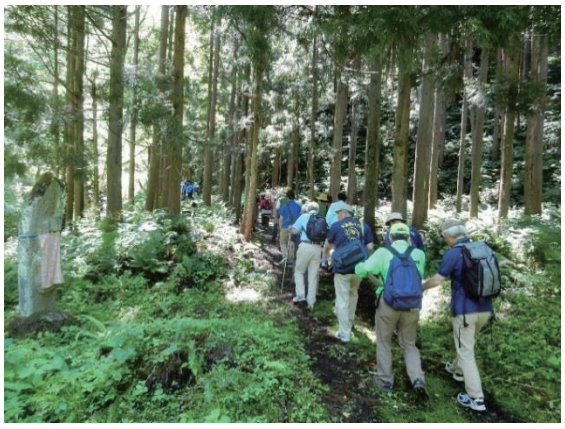


図 400　観光ボランティアガイド現地研修会

図 401　史跡探訪（市民史跡保全活動）

図 402　歴史学習（市民史跡保全活動）

第14節　管理・運営に関する計画

史跡の管理・運営にあたっては、文化財を主管する生涯学習課が主体となり、地権者や地域住民、関係する機関や団体と役割分担を明確にしながら連携して適切に実施する。

５－14－１　地域と連携した管理運営体制の構築

【楢下宿】

史跡の地権者とは常に情報を共有し、文化財保護法による手続き等が必要なときは専門的な知識や技法の提供により支援する。

楢下宿にある史跡を構成する歴史的建造物については、管理を楢下地区住民で組織する「楢下宿保存会」に、警備及び保守点検は業者に委託しており、今後もこの体制を維持する（図403～図407）。

楢下宿では、史跡の保全活動や景観整備が住民主導で進められている。また、史跡来訪者を地域で受け入れガイド案内する取り組みも行われており、今後も地域と行政が役割を分担しながら、現状の管理運営体制を継続する。

図 403　保存会による建造物の管理

図 404　毎年、冬に行われる燻蒸作業

■楢下宿保存会への管理委託業務内容（抜粋）

1　楢下宿脇本陣　「滝沢屋」

ア　建物及びトイレ等付属施設並びに敷地内外の整理、整頓、清掃に関すること

イ　建物等の適正な環境保持に関すること

ウ　滝沢屋設置条例第３条の規定による料金の徴収に関すること

エ　入館者の案内に関すること

オ　災害及び盗難防止に関すること

カ　日誌の記帳及び管理に必要な帳票等の整理に関すること

キ　農村公園トイレの清掃に関すること

ク　建物の燻蒸及び雪囲いに関すること等

2　楢下宿古民家（大黒屋厨房を含む。）、かわばた広場

ア　建物及びトイレ等付属施設並びに敷地内外の整理、整頓、清掃に関すること

イ　簡易な補修作業に関すること

ウ　建物等の適正な環境保持に関すること

エ　入館者の案内に関すること

オ　災害及び盗難防止に関すること

カ　日誌の記帳及び管理に必要な帳票等の整理に関すること

キ　古民家の燻蒸に関すること等

図 405　雪囲いの設置

図 406　障子の張り替え

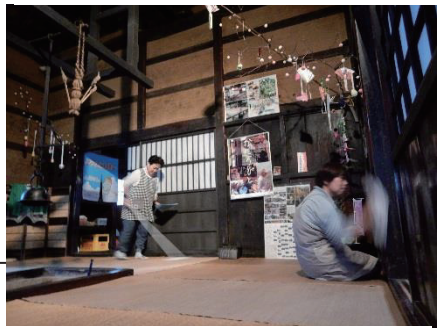


図 407　建造物の清掃

【金山越】

楢下宿は住民組織の楢下宿保存会が管理運営しているのに対し、金山越は無住となったため、史跡の管理運営が大きな課題となっている。

無住の金山については、生涯学習課が定期的に現地を訪れ巡回しているほか、大雨や台風が接近した際や、雪解け水による影響が懸念されるときは、その都度、現地に赴き、被災等の経過観察を行っている（図408）。

平成26年の発災を受けて平成27年に始動した市民史跡保全活動により、現在は史跡の適正な管理が図られている。

この市民保全活動は今後も継続して定期的に実施するとともに、今後は保全活動参加者や金山出身者を中心に史跡の保存や管理に携わるコミュニテイの育成を目指す。

図 408　生涯学習課による金山の定期巡回。羽州街道金山越は、大雨や台風、雪解け水等による影響を受けやすいため、日常的な観察が必要

５－14－２　専門家による助言指導及び大学等研究機関との連携体制の構築

史跡を適正に保存し、正しく管理運営していくためには、多様な分野における調査・研究・検証が必要である。

これまで災害復旧や保存活用計画を策定する際に設置した各委員会の委員をはじめとする学識経験者や専門家からは、引き続き助言や指導が受けられる体制を継続するとともに、史跡の管理運営に求められる多様な知識や専門分野をカバーするため大学等の研究機関との連携を拡充する（図409）。

図 409　専門家による現地指導

５－14－３　文化施設との連携体制の構築

史跡に関連する史料の収蔵・展示・公開にあたっては、郷土資料館の機能を持つ上山城や郷土資料を収集している上山市立図書館と連携の更なる強化を図る。

◆建造物・ガイダンス施設・便益施設の冬の管理：屋根の雪下ろし

降雪期は雪の重さで茅葺屋根等が毀損することも少なくない。そのため、屋根の雪下ろしが不可欠で、現在、教育委員会が直営で実施している。

脇本陣「庄内屋」は、茅葺き屋根に降り積もった雪が隣接する私有地内に落ち、また、山田屋の屋根の雪は街道（市道）に直接落ちるため、降雪期は落雪注意の看板を設置し安全対策を講じている。

また、庄内屋東側の茅葺屋根はコの字型で複雑な形状で、かつ建物東側にある杉林の影響で日差しが遮られるため、降り積もった雪が解けにくく、こまめな雪下ろしが必要となる（図410）。

ガイダンス施設及び便益施設も冬期の雪下ろしが不可欠である。

図 410　庄内屋東側の茅葺屋根の降雪状況。こまめに雪下ろしをしないと、雪の重さで茅葺屋根が毀損する恐れがある。また、建物の壁裾に積雪が残ると融雪期に建物壁が傷むので対策が必要である。

平成 26 年7月の大雨に伴い史跡 23 箇所で甚大な被害が生じた羽州街道金山越で発災翌年の平成 27 年度から実施している市民史跡保全活動のアンケートに寄せられた参加者の声（抜粋）

・往時の街道を行き交う人々が偲ばれ、参加させていただき大変良かった。
・保全活動は大変でしたが、やりがいがありました。何度来ても良い所です。
・除草により石積みがきれいに表れ、見た目が美しくなりました。
・保全活動が定着し、良い街道になってきていると思います。
・上山にこれほど貴重な史跡が残っていることに今まで気づかなかった。
・自然の中でゆっくり時間が流れる素晴らしい史跡だと思う。
・往時のままの姿が残る貴重な財産。森林浴も兼ね、リフレッシュできる場所でした。
・自然と歴史が一緒に味わえるところが素晴らしい。未来に残す必要があると思います。
・保全活動を重ねるたび、史跡がより身近になり、より多くの方から知ってもらいたい文化遺産です。
・昔の人の維持管理の大変さを知ることができました。
・素晴らしい歴史遺産をしっかりと守ってゆかねばと思いました。
・参勤交代や三山参りの人々が苦労して歩いたと思うし、保全にも相当な労力を費やしたと思う。
・史跡保護のためにはこのような活動が毎年必要だと思う。
・一人一人の力が集まると大きな力となることを学びました
・保全活動参加者の努力で江戸時代の街道そのままに保存されていることがわかりました
・植物、史跡等の解説を聞くことができて大変勉強になりました
・保全活動に加えて阿子島先生や荒木先生のお話がセットになっているところがいいです。史跡に対する理解が深まると活動への意欲も高まります。
・良い汗をかきました。文化遺産の保存に少しでも役に立てば良いと思います。
・参加するたびに新しい学びがあります。歴史を刻んでいきたいものです。
・ふるさとに残る史跡の保全活動に関われることはうれしく思う。
・街道を移動しながらの保全活動で充実していた。歴史学習も良かった。今後が楽しみです。
・大勢で活動すると労働も苦になりません。先生方のお話も分かりやすく楽しく聞くことができました。
・年3回の保全活動には出来る限り参加し微力ながら協力したいと思っています。根底には自然のままの往時を偲ぶことができる魅力があるからだと毎回思います。
・保全活動だけでは疲れが残るが、街道の解説があったので疲れが吹き飛んだ。保全活動と学習会の時間の配分はちょうどいいと思う。
・大変だったが、街道の保存のためだと思うと楽しかった。
・参加するたび地理的な理解が深まり、探究心が掻き立てられます
・歴史的価値のある街道をきれいにすることができて、参加して良かったと思います。
・「また来たい」と思える場所の維持活動に自分が関わることができて有意義でした。

図 411　市マイクロバスで金山宿に到着した市民史跡保全活動の参加者

第15節　事業計画

５－15－１　事業の方針

整備事業は、史跡を保存するための整備、史跡を活用するための整備に要する期間によって分類し、事業の実施に当たっては、市民史跡保全活動や大学等とこれまで同様に連携を図り、可能な限り住民参加型のスタイルとすることを通して、史跡の理解を深め、郷土愛の醸成に寄与する。整備にかる事業期間は概ね５年とし、整備事業の実施に当たっては、学識経験者及び専門家等からなる「（仮）整備検討委員会」を組織し、当委員会で事業の進捗確認と検証を行いながら５年を目途に計画を見直す。

なお、災害復旧など急を要するものについては適宜対応する。

５－15－２　事業の内容

表24　整備事業の内容

	史跡を保存するための整備	史跡を活用するための整備
楢下宿	史跡標識の設置、案内板・説明板の更新 境界標の設置 史跡模型等の制作 山田屋の建具修繕 石橋クラック変位観測 アーチ部氷柱対策（観測含） 歴史的建造物（茅葺屋根）の修繕 景観整備 眺望景観の管理 史跡の公有化	石橋や高石垣への危険注意喚起（安全対策） 史跡解説板の更新、道標の整備（撤去整理含） ガイダンス施設整備（展示物更新） サイン整備（撤去含） 歴史的建造物の照明設備整備 ガイダンス施設整備（展示ケース拡充） 史跡パンフレットの更新 ポスターの製作 旧武田家駐車場の排水路整備 便益施設（大型バス駐車場・トイレ）整備
金山越	史跡標識の設置、案内板・説明版の更新 イノシシ等の獣害対策 素掘り側溝（排水路）管理 境界標の設置 幅員が減少した路肩の整備 野面石積みの変位観測 景観整備 眺望景観の管理、倒木等整理	史跡解説板の更新、道標の整備（更新） 既存木歩道・木橋の整備（安全対策） 史跡パンフレットの更新 ポスターの製作 １町（109m）毎に町石設置 既存木歩道の整備（更新）

５－15－３　整備年次計画

表25　整備事業の年次計画／史跡を保存するための整備

	史跡を保存するための整備	連携体制			実施時期				
		大学等	市民活動	草屋根	R3	R4	R5	R6	R7
楢下宿	【短期】								
	史跡標識の設置						●	●	●
	案内板・説明板の更新・整理				●	●	●		
	【中・長期】								
	境界標の設置								●
	史跡模型等の制作	●				●	●		
	山田屋の建具修繕	●			●	●	●	●	
	石橋クラック変位観測		●		●	●	●	●	●
	アーチ部氷柱対策（観測含）				●	●	●	●	●
	茅葺屋根の修繕			●	●	●	●	●	●
	景観整備		●		●	●	●	●	●
	眺望景観の管理		●		●	●	●	●	●
	史跡の公有化				公有化が必要と判断された場合				
	その他、必要な整備				必要な整備が生じたとき				
金山越	【短期】								
	史跡標識の設置						●	●	●
	案内板・説明版の更新				●	●	●		
	イノシシ等の獣害対策				●	●	●	●	●
	素掘り側溝（排水路）管理		●		●	●	●	●	●
	【中・長期】								
	境界標の設置								●
	幅員が減少した路肩の整備		●			●	●		
	野面石積みの変位観察		●		●	●	●	●	●
	景観整備		●		●	●	●	●	●
	眺望景観の管理、倒木等整理		●		●	●	●	●	●
	その他、必要な整備				必要な整備が生じたとき				
	整備検討委員会の開催				●	●	●	●	●
	遺構の確認調査				●	●	●	●	●
	整備事業報告書の作成								●

表26　整備事業の年次計画／史跡を活用するための整備

	史跡を活用するための整備	連携体制			実施時期				
		大学等	市民活動	草屋根	R3	R4	R5	R6	R7
楢下宿	【短期】								
	石橋や高石垣への危険注意喚起（安全対策）				●	●			
	史跡解説板の更新、道標の整備（撤去整理含）				●	●	●		
	ガイダンス施設整備（展示物更新）	●	●	●	●	●	●		
	サイン整備（撤去含）				●	●	●		
	歴史的建造物の照明設備整備		●		●	●			
	ガイダンス施設整備（展示ケース拡充）					●	●		
	史跡パンフレットの更新	●			●	●			
	ポスターの製作【①】	●			●	●			
	【中・長期】								
	旧武田家駐車場の排水路整備				●				
	便益施設（大型バス駐車場・トイレ）整備				社会情勢から判断				
	その他、必要な整備				必要な整備が生じたとき				
金山越	【短期】								
	史跡解説板の更新、道標の整備（更新）		●		●	●			
	既存木歩道・木橋の整備（安全対策）		●		●	●	●	●	●
	史跡パンフレットの更新	●			●	●			
	ポスターの製作	●			●	●			
	【中・長期】								
	１町（109m）毎に町石設置		●		●	●	●	●	●
	既存木歩道の整備（更新）		●		●	●	●	●	●
	その他、必要な整備				必要な整備が生じたとき				
	整備検討委員会の開催				●	●	●	●	●
	整備事業報告書の作成								●